



プレスリリース No. 11/382  
即時解禁  
2011年10月26日

国際通貨基金(IMF)  
米国・ワシントン DC

### クリスティーヌ・ラガルド IMF 専務理事による ユーロ圏首脳会議に関する声明

国際通貨基金 (IMF) のクリスティーヌ・ラガルド専務理事は、ブリュッセルにおいて以下の声明を発表した<sup>1</sup>。

「本日、ユーロ圏首脳により、同地域での危機対応のための包括的枠組みの策定に向け、一連の施策が打ち出されたことを歓迎すると共に、多数の局面で大きな進展が見られたことに勇気づけられた。

まず第1に、ギリシャに関しては、民間部門の関与に関する主要パラメータで合意が得られたことは、債務の持続可能性を向上する上で最も重要だといえる。これは、ギリシャ経済の現実的な評価と、民間および公的部門間の適切な負担共有に基づくものである。

より大切なのは、私は、IMF 理事会に対し、現行プログラムのもとで次回トランシュの支払いを承認するよう求める意向である。さらに、ギリシャ当局が、合意した経済改革の実施に引き続き邁進することも無論、肝要となる。

第2に、新規の特別目的投資機関 (SPIV) の活用など、「欧州金融安定ファシリティ (EFSF)」の支援能力をレバレッジにより拡充するという決定は、欧州による危機波及の防止策の強化と、ソブリン債市場の適切な機能の確約に役立つ可能性がある。今後は、この拡充後の EFSF の運用方法と予想通りの支援規模を確保する方策をさらに細かく煮詰めることが肝要となろう。

第3に、銀行の資本増強と資金調達能力の強化において協調的メカニズムの構築で合意に達したことは大きな前進といえる。成長の回復は財政的に健全な銀行部門に依存しており、銀行資本のバッファの強化がカギとなる。その実現には、国内向け・各国向け融資を削減するのではなく、主に資本の追加によって達成する必要がある。

<sup>1</sup>ブリュッセル時間で2011年10月27日発表。

第4に、ユーロ圏内での経済的・財政的な連携強化に関する一連の決定と、通貨上の団結と同等の経済的団結に向けてコミットメントが得られたことを歓迎する。

最後に、IMFは、ユーロ圏が直面する諸課題に取り組み、成長の可能性を全面的に回復するために本日にされた努力の支援において、今後も役割を担っていくことを確約する」